

未来の YANAGAWA

将来の夢は、私の故郷である水郷・柳川の水をきれいにする事です。それも、夜間にはホテルが飛び交い、地元の方にも、訪ねて来られた方にも、誰からにも愛される世界一のまちに自分の生涯のなかでしていけるといいなと思っています。

このことを考えるようになったのは、18年間で川下りをする機会に何度か恵まれたことがあります。そのたびに、水郷・柳川というわりには、堀を流れる水がきれいだとはいえないと思ってきたからです。一方で、市内全域を巡る堀は人工的であり、決して幅が広い区間だけではなく、狭い幅の区間もたくさんあります。なだらかな水の流れは民家の裏を流れ、船頭さんが歌でもうたいながら過ごす川下り中の時の流れは、風情があります。日本の川下りのなかでも異なる楽しみ方ができるとしています。

2015年には、西鉄天神大牟田線を走行する柳川観光列車”水都”が運行開始し、西鉄柳川駅も都市再生の計画により、木造で落ち着きを備えた雰囲気へとなりました。柳川にホテルがいるのかを調べると、今夏発見された報告もありますが、柳川の中心部に位置する川下りコースではなく、市内でも端のエリアのようです。

また、2008年度から2012年までの5カ年を計画期間とし、市では、「ホテルの飛び交う水郷柳川」を将来像とする行動計画が実施されています。

しかし、帰省した際に散歩したりすると、堀を流れる水は、ホテルが棲めるような水質には到底至っていないように感じられ、実際に、私はホテルを柳川で見たことはありません。

自身の経験として、小学生の低学年のときに、学校の授業の一環で、定期的に柳川の堀を流れる水の水質や浄化方法についての学習や、浄化する活動もしておりましたが、当時はさほどこの授業に重要性を感じていませんでした。しかし、この時間は今となっては、大切なことではないかと思っています。

そこで、私の提案は、柳川の堀に夜間ホテルが飛び交うまちにすることを最終的な目標として、柳川市内の全学校の小学1年から高校3年を対象に、1,2週間に1回、柳川の堀を流れる水の水質や浄化方法についての学習や、浄化する活動を行います。また、市民、行政、企業からも有志を募り、各学校での活動に参加します。この定期的な活動が柳川で勉強をする、仕事をする方々と協力し、市全域に柳川を大切にする意識が広がる潮流となればいいなと考えています。

この動き、そして先ほど掲げた目標が実現し、結果として地元の方にも、訪ねて来られた方にも、誰からにも愛されるような世界一のまちにつながるひとつのステップとなれば、望外の喜びです。